

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

平成25年度愛知県「青少年防災キャンプ推進事業」

愛知県教育委員会

【事業のポイント】

- 河川の氾濫、液状化が想定される地区で、家庭教育と連携して地域主導型の防災キャンプを実施。
- 三方を海に囲まれ、津波の被害が想定される地区で、昨年度の反省を踏まえて学校教育と連携して事前指導を重視した防災キャンプを実施。
- 地域の様々な立場の人が連携することの意義を「防災フォーラム」で取り上げ、啓発。



暗闇の中で夕食を食べる(田原中部小学校)

1. 企画

(1) 事業実施の背景

南海トラフを震源地とする巨大地震の想定被災範囲とされている愛知県において、防災教育や災害に強い地域づくりは喫緊の課題である。

昨年度の実施の結果、防災キャンプをとおして、学校、行政、地域の様々な団体等が連携・協働できる運営体制が構築され、地域コミュニティの再生や世代を超えた絆づくりを推進できた。一方、行政内における連携や地域全体への啓発、子どもの学習と地域防災体制の確認の両立には課題が残った。

(2) ねらい

昨年度の成果を踏まえて、各市町村での取組を推進するとともに、今年度はモデル事業として、地区の課題を踏まえたプログラムにより、家庭教育や学校教育と地域の人々が連携した防災教育を行うことにより、地域社会全体への啓発を図る。

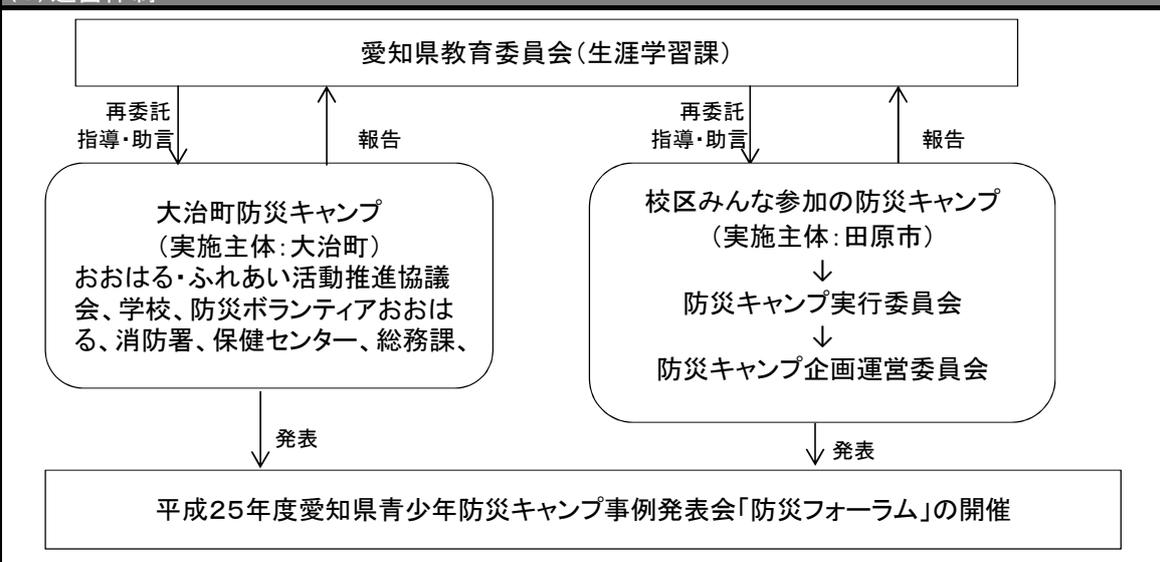
海抜0メートル、有事の際には町内を流れる3つの河川の氾濫や液状化が想定される地区(大治町)では、地域の人々が主導して、家庭教育につながる事業を実施する。

三方を海に囲まれて津波による大きな被害が想定され、市の総合計画でも重点項目になっている地区(田原市)で、昨年度の成果を踏まえて学校と地域の連携体制を構築し、地域全体の防災意識の高揚を図った。

県では、事例発表会「防災フォーラム」で、愛知県の課題を指摘し、参加者がそれぞれの地域を見据えて今後の活動の方向性を考えられるような講演を企画するとともに、多様な立場の人たちがつながりあうのに役立つワークショップを紹介する。

2. 事業概要

(1) 運営体制



(2)開催実績	
月 日	内 容
4月23日	田原中部小学校 打ち合わせ(実施日程調整、事業内容検討)〈田原市〉
4月24日	清田・福江校区打ち合わせ(実施日程調整)〈田原市〉
	福江小学校区企画運営委員会(実施日程調整)〈田原市〉
4月26日	田原中部小学校区企画運営委員会(実施日程調整、事業内容検討)〈田原市〉
4月30日	清田小学校 打ち合わせ(事業内容検討)〈田原市〉
	福江小学校 打ち合わせ(事業内容検討)〈田原市〉
5月2日	清田小学校区企画運営委員会(事業内容検討)〈田原市〉
	福江小学校区企画運営委員会(事業内容検討)〈田原市〉
5月8日	第1回おおはる・ふれあい活動推進協議会(事業内容の検討、詳細スケジュール検討)〈大治町〉
5月15日	福江小学校区企画運営委員会(事業内容検討)〈田原市〉
5月16日	再委託契約
5月16日～	童浦小学校事前学習(総合的な学習の時間7時間)〈田原市〉
5月30日	童浦小学校打ち合わせ(事業日程及び運営体制の確認)〈田原市〉
6月13日	田原中部小学校打ち合わせ(事業日程及び運営体制の確認)〈田原市〉
6月28日	福江小学校打ち合わせ(事業日程及び運営体制の確認)〈田原市〉
7月1日	清田小学校打ち合わせ(事業日程及び運営体制の確認)〈田原市〉
7月2日	童浦小学校打ち合わせ(事前学習の内容調整)〈田原市〉
7月8日	田原市校区みんな参加の防災キャンプ実行委員会(防災キャンプの内容検討)〈田原市〉
	清田・福江校区合同防災研修会〈田原市〉
	清田小学校防災教育「自分の命を守る」〈田原市〉
7月9日	童浦小学校防災教育「自分の命を守る」〈田原市〉
	童浦小学校区防災キャンプ企画運営委員会(防災キャンプの内容検討)〈田原市〉
	福江小学校防災教育「自分の命を守る」〈田原市〉
7月12日	第2回おおはる・ふれあい活動推進協議会(事業内容の検討、役割分担の決定等)〈大治町〉
7月16日	福江小学校防災PR〈田原市〉
7月29日	清田小学校防災教育「防災対策について」〈田原市〉
7月31日	福江小学校防災教育「災害時のボランティア体験」〈田原市〉
8月5日	清田小学校、福江小学校打ち合わせ〈田原市〉
8月8日	第3回おおはる・ふれあい活動推進協議会(事業実施に向けた最終調整等)〈大治町〉
8月20日	童浦小学校区防災キャンプ企画・運営実行委員会(防災キャンプの内容検討)〈田原市〉
	童浦小学校防災教育「災害時のボランティア体験」〈田原市〉
8月21日	清田小学校防災教育「災害時のボランティア体験」〈田原市〉
8月22日～23日	清田小学校区防災キャンプ実施〈田原市〉
	福江小学校区防災キャンプ実施〈田原市〉
8月23日～25日	防災キャンプ実施〈大治町〉
8月24日～25日	童浦小学校区防災キャンプ実施〈田原市〉
9月2日～	田原中部小学校事前学習(総合的な学習の時間 20時間)〈田原市〉
9月19日	おおはる・ふれあい活動推進協議会防災キャンプ部会(反省、問題・課題の把握)〈大治町〉
9月20日	田原中部小学校打ち合わせ(防災キャンプの内容検討)〈田原市〉
9月25日	第4回おおはる・ふれあい活動推進協議会(事業実施後の反省・意見)〈大治町〉
11月29日～30日	田原中部小学校区防災キャンプ実施〈田原市〉
1月21日	防災キャンプ実行委員会(反省)〈田原市〉
1月24日	平成25年度青少年防災キャンプ推進事業「防災フォーラム」開催
2月20日	平成25年度青少年防災キャンプ推進事業記録集作成

※委託契約日(5月16日)以前の実績について

大治町：おおはる・ふれあい活動推進協議会の年間予定が決まっており、地域や家庭との連携を効果的に行うためには第1回おおはる・ふれあい活動推進協議会で打ち合わせをする必要があった。

田原市：学校教育との連携を効果的に行うためには、年度当初に学校の年間スケジュールや教育課程に組み込んだ計画を立てる必要があった。

3. 防災キャンプ実施概要

防災キャンププログラム1	
【大治町防災キャンプ】(大治町へ再委託)	
活動趣旨	家庭教育推進を図るため組織された「おおはる・ふれあい活動推進協議会」が中心となり、発生が心配される東海・東南海・南海地震等による地震・津波災害からの被害の軽減を図るため、実働訓練を主体にした訓練活動を推進することにより、小学校区内の子ども、災害時要援護者等が迅速・確実な避難行動安心・安全な災害応急対策の技能等を身につけるための防災キャンプを実施する。避難所体験では、就寝時の空間を確保するためのダンボールによる空間づくりをしたり、さまざまな体験活動を行い、体験を今後の糧にする。
実施日	平成25年8月23日(金)～平成25年8月25日(日)
実施場所	大治小学校
参加範囲	大治町の小学生及びその保護者とその家族ボランティア委員
参加人数	40人(未就学児2名、小学校2学年児童2名、3学年児童1人、4学年児童3人、5学年児童1人、中学生1年生1人、2年生1人・保護者9名、ボランティア委員20名)
プログラム	
8月23日(金) 17:00	避難所開設訓練開始、オリエンテーション・・・日程、活動内容等の確認、注意事項の徹底
17:30	夕食・・・各自持参したおにぎりを食べる。
18:30～20:00	ダンボールハウスづくり・・・班編成をし、就寝用のダンボールハウスづくり
20:15	避難所生活体験・・・避難所生活体験をしながら防災についての視聴覚教材(DVD)を視聴する。
21:00	就寝・・・就寝時ルールを説明した後消灯
8月24日(土) 6:30	起床
6:40	ラジオ体操・・・体育館内 スポーツ推進委員とともにラジオ体操、健康チェック
7:00	朝食・・・ロールパンとツナマヨやソーセージなどで、簡単サンドを各自で作って食べる。
9:30	避難体験訓練・・・煙の空間を体感、その後に体育館に戻りAEDの使い方を消防署職員から学ぶ。
10:30	紙芝居・・・防災ボランティアによる紙芝居「地震が来たぞ！」(パソコンを使い、スクリーンも使用)
11:00	昼食の準備・・・防災ボランティア指導によるアレンジ昼食
12:15	昼食・・・白米、マカロニスープ、肉じゃがフー、じゃがりこサラダ
13:30～14:30	通信訓練等・・・通信遮断時の衛星電話の使い方、自家発電の利用訓練、土のう作成体験、非常用電灯
14:30～15:30	講演・・・元自衛官による講演「東日本大震災被災地では・・・」
15:30～16:30	シャワー・・・小学校プールのシャワー
16:30～18:00	夕食づくり・・・班に分かれて、日赤奉仕団の指導を受け夕食づくり
18:00～19:30	夕食・・・にゅうめんとアルファ米
19:50～20:30	夜間避難誘導訓練・・・河川の堤防決壊に伴う洪水を想定して、体育館から校舎3階まで懐中電灯の明かりだけで避難する。
20:30～21:00	一日の反省・・・一日の反省と3日目の予定を打ち合わせする。
8月25日(日) 6:30	起床
6:40	ラジオ体操・・・体育館内 ボランティア(看護師)の方と、全員でラジオ体操、健康チェック
6:50～8:00	炊き出し・朝食・・・はそりでお湯を沸かし、非常食をつくる。
8:30～10:00	防災時に役立つ物づくり・・・ホットタオルの作成、古いTシャツを使い、「簡単バッグ」を作成、新聞紙を使い、「避難所スリッパ」づくり、防災についての写真・資料を見たり、実際に展示物を触ったりして学ぶ。
10:00～10:30	アンケート記入・・・防災クイズ、アンケートの記入と防災キャンプを振り返ってみる
10:30～11:00	体育館清掃・・・体育館清掃と各自持ち物の片付け
11:00～	閉所式・・・閉所式、集合写真撮影、解散、片付け
防災キャンププログラム2	
【田原市校区みんな参加の防災キャンプ～子どもから始まる防災教育】(田原市へ再委託)	
① 福江小学校避難生活宿泊体験(福江小学校区防災キャンプ)	
活動趣旨	事前学習をふまえて、学校を避難所とした生活体験(防災キャンプ)を実施し理解を深める。さらに、不便な状況での避難所体験により災害に対する意識や災害時の状況に対する理解を深めさせ、子どもたち自ら何ができるか、何をすればよいのかなどを学べる体験学習を実施し、子どもたちの考える力の向上を図る。 また、東日本大震災を実際に経験し、防災教育の重要性を各地に伝えている方たち等を講師として防災講演会を開催する。防災キャンプ事業の趣旨を多くの方に伝えるため、地域住民や保護者、市内教員等を対象として開催し、地域住民等の防災意識の高揚及び防災教育の充実につなげていく。
実施日	平成25年8月22日(木)～平成25年8月23日(金)
実施場所	福江小学校
参加範囲	田原市立福江小学校第6学年及びその保護者と地域住民
参加人数	119人(福江小学校第6学年児童45名・保護者・地域住民等74名)

プログラム	
8月22日(木)13:00	避難訓練開始(緊急情報メール配信)・・・自宅から福江小学校へ移動
14:00	避難所体験・・・安否確認、防災キャンプの目的の確認
14:30	避難所居住スペース作成・・・班ごとに話し合い、模造紙にまとめて発表。投票で避難所スペースのデザインを決め、ダンボールでスペース作成
17:00	夕食準備・配膳・・・地域の方や教員で準備。児童は、配膳の準備の手伝い(皿にラップやビニール袋をかけるなどの工夫をする)
17:30	夕食・・・アルファ化米、スープ
18:00	児童対象防災講演会(清田小学校と合同)・・・「命を守る力を育む防災教育」講師 元釜石市消防防災課長 末永正志氏
19:00	簡易コンロ、簡易トイレ作成(児童) 一般市民対象防災講演会・・・「命を守る力を育む防災教育」講師 元釜石市消防防災課長 末永正志氏
21:00	就寝
8月23日(金)6:00	起床・体操・・・ラジオ体操
7:00	朝食準備・朝食・・・児童は、昨夜作った簡易コンロでお湯を沸かし、アルファ化米とインスタントみそ汁の朝食
8:30	備蓄倉庫の確認・・・備蓄場所、備品等の確認、飲料水兼用耐震性貯水槽の紹介
9:00	ふりかえり・・・班ごとに反省し、全体に発表
10:30	片付け
11:00	解散

② 清田小学校避難生活宿泊体験(清田小学校区防災キャンプ)

活動趣旨	事前学習をふまえて、学校を避難所とした生活体験(防災キャンプ)を実施し理解を深める。さらに、不便な状況での避難所体験により災害に対する意識や災害時の状況に対する理解を深めさせ、子どもたち自ら何が出来るか、何をすればよいのかなどを学べる体験学習を実施し、子どもたちの考える力の向上を図る。また、東日本大震災を実際に経験し、防災教育の重要性を各地に伝えている方たち等を講師として防災講演会を開催する。防災キャンプ事業の趣旨を多くの方に伝えるため、地域住民や保護者、市内教員等を対象として開催し、地域住民等の防災意識の高揚及び防災教育の充実につなげていく。
実施日	平成25年8月22日(木)～平成25年8月23日(金)
実施場所	清田小学校
参加範囲	田原市立清田小学校第5学年、第6学年及びその保護者と地域住民
参加人数	90人(清田小学校第5学年27名、第6学年児童13名・保護者・地域住民等50名)

プログラム

8月22日(木)13:00	避難訓練開始(緊急情報メール配信)・・・自宅から清田小学校へ移動、学校に到着した児童からなまず号(起震車)体験
14:00	避難所体験・・・安否確認、防災キャンプの目的の確認
14:30	避難所居住スペース作成・・・班ごとに話し合い、模造紙にまとめて発表、投票で避難所スペースのデザインを決め、ダンボールでスペース作成
16:30	夕食準備・配膳・・・地域の方や教員で準備、児童は、配膳の準備の手伝い(皿にラップやビニール袋をかけるなどの工夫をする)
17:00	夕食・・・アルファ化米、スープ、夕食後、バスで福江小学校へ移動
18:00	児童対象防災講演会(福江小学校と合同)・・・「命を守る力を育む防災教育」講師 元釜石市消防防災課長 末永正志氏、終了後、児童はバスで清田小学校へ移動、清田校区の一般市民も福江小学校で講演会に参加し、その後、清田小学校で避難所見学
19:30	星空観察会
21:00	就寝
8月23日(金)6:00	起床・体操・・・ラジオ体操
6:30	朝食準備・朝食・・・簡易コンロを作ってお湯を沸かし、アルファ化米とインスタントみそ汁の朝食
8:30	備蓄倉庫の確認・・・備蓄場所、備品等の確認
9:00	ふりかえり・・・班ごとに反省し、全体に発表
10:30	片付け
11:00	解散

③ 童浦小学校区防災キャンプ

活動趣旨	事前学習をふまえて、市民館を避難所とした生活体験(防災キャンプ)を実施し理解を深める。さらに、不便な状況での避難所体験により災害に対する意識や災害時の状況に対する理解を深めさせ、子どもたち自ら何が出来るか、何をすればよいのかなどを学べる体験学習を実施し、子どもたちの考える力の向上を図る。さらに、校区コミュニティ役員や子ども会、消防団などと連携して事業を実施し、地域教育力や地域防災力の強化を図る。また、過去の災害からの教訓を正しく学び、災害に備えることの重要性をわかりやすく講義してくれる講師を招き、これからの防災減災について考えることを促すための防災講演会を地域住民や保護者を対象として開催し、防災意識の高揚を図る。
------	--

実施日	平成25年8月24日(土)～平成25年8月25日(日)
実施場所	童浦市民館
参加範囲	田原市立童浦小学校第5学年及びその保護者と地域住民
参加人数	148人(童浦小学校第5学年児童65名・保護者・地域住民等83名)
プログラム	
8月24日(土)13:00	避難訓練開始(緊急情報メール配信)・・・自宅から童浦市民館へ移動
14:00	避難所体験・・・安否確認、防災キャンプの目的の確認
14:30	避難所居住スペース作成・・・班ごとに話し合い、模造紙にまとめて発表。投票で避難所スペースのデザインを決め、ダンボールでスペース作成(作成時は消防団員が手伝う)
16:30	簡易風呂体験・・・地域の方がつくったドラム缶風呂を体験(婦人研修員や消防団で湯沸かし)
17:00	夕食準備・配膳・・・地域の方や教員で準備。児童は、配膳の準備の手伝い(皿にラップやビニール袋をかけるなどの工夫をする)
18:00	夕食・・・アルファ化米、スープ
19:30	防災講演会・・・「大震災の教訓に正しく学び次の巨大地震に備えよう」 講師 名古屋大学減災連携研究センター客員教授 隈本邦彦氏
21:00	就寝
8月25日(日)6:00	起床・体操・・・ラジオ体操
6:30	朝食準備・朝食・・・アルファ化米、インスタントみそ汁
8:30	備蓄倉庫の確認・・・備蓄場所の確認、飲料水兼用耐震性貯水槽の紹介
9:00	ふりかえり・・・班ごとに反省し、全体に発表
10:45	片付け
11:00	解散

④ 田原中部小学校避難生活宿泊体験(田原中部小学校区防災キャンプ)	
活動趣旨	子どもたちが地域の防災について学び、避難所宿泊体験をすることにより、自らの身を守ることや、災害が起きたときにどのような行動をとったらよいかを考える防災教育として実施する。また、過去の災害からの教訓を正しく学び、災害に備えることの重要性をわかりやすく講義してくれる講師を招き、これからの防災減災について考えることを促すための防災講演会を地域住民や保護者を対象として開催し、防災意識の高揚を図る。
実施日	平成25年11月29日(金)～平成25年11月30日(土)
実施場所	田原中部小学校
参加範囲	田原市立田原中部小学校第4学年及びその保護者と地域住民
参加人数	108人(田原中部小学校第4学年児童68名・保護者・地域住民等40名)
プログラム	
11月29日(金)13:50	避難所開所式・・・防災キャンプの目的の確認
14:00	避難所居住スペース作成・・・班ごとに話し合い、模造紙にまとめて発表。投票で避難所スペースのデザインを決め、ダンボールでスペース作成
16:00	夕食準備・配膳・・・地域防災倉庫のはそりでお湯を沸かす(教員)。児童は、配膳の準備の手伝い(皿にラップやビニール袋をかけるなどの工夫をする)
16:30	夕食・・・停電を設定して、以後は消灯。人数分の食事がないと仮定して互いに分け合う。アルファ化米、スープ、乾パン
17:00	就寝準備・・・暗闇の中で毛布等を準備
18:30	夜間避難訓練(地域の方も参加)・・・懐中電灯で高所に移動
19:00	防災講演会(地域の方も参加)・・・「大震災の教訓に正しく学び次の巨大地震に備えよう」講師 名古屋大学減災連携研究センター客員教授 隈本邦彦氏
21:00	就寝
11月30日(土)6:30	起床・体操・・・ラジオ体操
7:15	朝食準備・・・児童食事係で、アルファ化米、ハイゼックス米飯、インスタントみそ汁をつくる
8:30	片付け
9:45	反省・メッセージづくり・・・班ごとに反省し、ふりかえり。事前学習で連携した被災地の4年生に送るメッセージ
10:30	避難所閉所式
10:45	引き渡し訓練
11:00	引き渡し完了

4. 普及啓発の実施概要

愛知県青少年防災キャンプ事例発表会「防災フォーラム」

平成26年1月24日(金) 愛知県自治センターで実施

参加者: 66名(県市町村職員、青少年教育団体・社会教育施設関係者、学校教育関係者等)

基調講演: 「大震災の教訓を正しく学び、次の巨大地震に備えよう」

名古屋大学減災連携研究センター 客員教授 隈本 邦彦 氏

(江戸川大学教授、元NHK防災担当記者)

事例発表

ワークショップ: 「そのときあなたの行動は！

～みんなが考え、話し合う、シナリオワークショップ〈体験版〉～」

コーディネーター: 特定非営利活動法人愛知ネット 南里 幸氏

記録集を作成し、県内市町村、社会教育施設等に配布。愛知県教育委員会のウェブサイトにも掲載。

5. 成果と課題

(1) 事業成果

愛知県教育委員会では、本事業の目的を「青少年の体験型防災教育」と「地域の絆づくり」と位置づけている。その趣旨に沿って、平成24年度は、地域の多様な団体や組織が連携しながら、子どもたちを対象とした防災キャンプを実施し、成果を得た。平成25年度は、地域のつながりに加え、家庭教育や学校教育との連携を図って2市町に事業を委託した。

大治町では、「おおはる・ふれあい活動推進協議会」が中心となって、家庭教育に結びつく防災キャンプを企画し、地域ボランティアが運営した。参加者は、家族とともに避難所の不便さを体験することで、日頃の生活のありがたみや他人への思いやりを家族と語り合い、家族で防災・減災に取り組み始めた。

田原市は、平成24年度に引き続いての実施であるが、子どもの教育と地域住民への啓発の両立が難しかったという反省から、新たにプログラムを作成した。学校教育との連携を強化し、子どもが「総合的な学習の時間」など授業の中で災害や防災について学習した後に、防災キャンプで知識と体験の結び付きを図り、その後、知識や体験を家庭に持ち帰って、子ども発信で家庭内防災について話し合うことを意図した。また、地域も、子ども対象の防災キャンプを行うためにどのように関わるかを考え、地域コミュニティが自発的に防災学習を始めるなど、地域や家庭の防災意識を高めることに成功した。

(2) 事業運営上の課題・留意点

全県的な課題としては連携の難しさが挙げられる。防災フォーラムのアンケートでも、「防災担当者としては、教育委員会の敷居が高く連携ができない」という意見のほか、他部局、他団体で行っている事業への無理解が感じられる意見もあった。

愛知県生涯学習推進計画においては、基本理念である「自己を高め、地域とつながり、未来を築く生涯学習社会」を実現するための視点の1つに「多様な主体による連携・協働の強化」が挙げられている。今後、教育委員会内で学校教育、家庭教育、社会教育の連携を強め、また、首長部局やNPO、自治会、企業等とも、それぞれの目指すものを明確に理解した上で、必要な連携・協働を目指すことが求められているのである。

防災担当部局は、防災の専門的な知識に基づいて「人の命を守る」ための事業を実施する。教育委員会は、人々に防災に対する基礎的な知識を身に付けさせるだけでなく、そのプログラムをとおして、判断力やコミュニケーション能力、公共心など様々な能力の育成、地域社会の絆の構築、家庭の教育力の向上などを旨とする。複数の組織が連携・協働して事業を行うためには、このような差異があることを前提とした上で、事業担当者が各団体の特徴を理解し、全体を把握しながらコーディネートすることが望まれる。

(3) その他

今後、このモデルを参考にして、多くの地域で、子どもが体験する機会を提供するとともに、子どもが発信者となって地域や家庭の意識を変えたり、体験が一過性のものでなく、地域や家庭で継続的・発展的な体験活動につながったりして、地域や家庭の教育力が高まることを期待する。

子どもが発信者となって地域の防災意識を高め、地域の絆を構築する方策については、子ども会やボーイスカウト、ガールスカウトなどとの連携や、大人と子どもの橋渡的存在としての若者の活用などを考えていきたい。

6. 団体プロフィール

愛知県教育委員会生涯学習課
青少年教育・女性指導支援グループ
〒460-8534
名古屋市中区三の丸3丁目1番2号